
桜色のメトロノーム

櫻井美月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜色のメトロノーム

【Nコード】

N3343G

【作者名】

櫻井美月

【あらすじ】

晃一の妻である侑子は36才という若さでこの世を去った。侑子の夢であった「自分史を小説にして本にする」ことを五周忌を期に、晃一は決断する。そして二人の子供、和歌と玲音に伝えられていく。若き晃一と侑子。若い二人の過去を知るに連れて、和歌と玲音の何が次第に変化していく。そして、あるとき……

晃一の決断：その一

五月一日 午後三時四十六分 榎本侑子 死去

享年三十六

「なあ、侑子。俺といて、幸せだったか」

侑子が天国へ旅立って、明日で五年が経とうとしている。俺は、この世で侑子と俺らの子供を愛することしか知らなかった。

「和歌も玲音も、中学三年生。今年でもう受験生なんだよな。あいつら、俺らが卒業したあの高校目指して頑張ってるんだ。いや、別に俺が『行け』って言ったわけじゃない。侑子が高校生のとき、俺にくれた手紙を子供らに見せたら、二人とも行く気になっちゃってな。」

あ、経済的に大丈夫かって？ 大丈夫さ。今、俺の会社は世の中に不況なんかに飲み込まれないで、安定してる。

え、勝手に手紙を見せるなって？ おいおい、侑子。和歌と玲音が生まれたとき、晃一と私の秘密は家族四人でまもりたいね、なあなんて言ってたじゃないか。俺は忘れないからな。侑子のそのときの表情を」

仏壇の前でこの世にいない侑子に話しかけているのは、毎日の日

課になってしまっている。

しかしそろそろこんな習慣やめようと思ってる。

それはな、明日で五年だろ。だから、侑子の夢だった……、あの小説を本にしようと思うんだ。だけど侑子、最後まで書き終えてないだろ。だから、侑子の知人に侑子に向けて手紙を書いてもらおうと思うんだ。

侑子、死ぬまでずっと辛かったのに、俺、結局何も出来なかったな。だけど後悔しても、お前は戻ってこない。だから、「榎本侑子」という一人の人間を俺は伝える。

今までの侑子との宝物は胸にしまって、もう一度スタートをした
いんだ。お前を全部知って、和歌や玲音に

侑子と晃一を伝えておきたいんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3343g/>

桜色のメトロノーム

2010年12月30日02時23分発行